

全国被連協 ニュース

No.82号 2017年12月13日発行

発行:全国クレサラ・生活再建問題

被害者連絡協議会事務局

〒530-0047 大阪市北区西天満 4-5-5

マーキス梅田 301号

大阪いちょうの会内

(大阪クレサラ・貧困被害をなくす会)内

TEL06-6361-3337 Fax06-6361-6339

社会的弱者の声を被害者の会とともに！

第37回クレサラ・生活再建問題被害者交流集会在開催されました

11月4日・5日、長野県上田市で第37回全国クレサラ・生活再建問題被害者交流集会在開催されました。4日の全体会では、基調報告、「貧困をなくすための処方箋を考える～子どもの貧困の現場から～」と題してパネルディスカッションが行われ、夜は懇親会で交流しました。5日の分科会は、「生活困窮者・要支援消費者への家計管理や生活支援（被連協担当）」など11の分科会在開催されました。

子どもの貧困の問題を健康や子育てから取り組もう～パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、小児科医の和田浩先生は、「自分の患者さんの中に貧困を抱えた人がいるか」とスタッフに聞いて、該当しそうな人に思い切って聞いてみた経験を語りました。医療者に何ができるか？と考えて、話をよく聞き、支援団体につなぐ事、子ども食堂などの案内をする等患者さんの声を代弁することと述べた

続いて、「信州子ども食堂」の取り組みが報告された。①24時間・365日の電話相談事業、②フードバンク事業、子どもの居場所作り（子ども食堂）の3つの事業について報告されました。

佐藤滋東北学院大学准教授は、資料を示しながら減少する中間層、増大する貧困層、総貧困化する日本として子どもの教育費の問題を参加者に提起した。



被連協主催の分科会

『生活保護者・要支援者への家計管理や生活再建支援』

……………金銭管理をテーマにした初めての分科会……………

1 生活再建へと一歩ふみだそう

クレサラ生活再建運動が約40年前に始まり、1981年に第1回被害者交流集会在行われて以来、運動の柱にクレサラ被害の撲滅と同時に、生活再建が常にうたわれてきました。



しかし、分科会のテーマはその時々時代の要請に応える形で、サラ金3悪との戦い方や法律改正運動、被害者の会の在り方、相談員の悩み、被害体験交流が中心でした。各被害者の会が日常的に生活再建を前提にした多重債務・クレサラ相談を行いながら、生活再建の問題での経験交流はほとんどありませんでした。

特に金銭管理問題についてはほとんど議論がなく、各被害者の会に任せていたので待望のテーマとも言えます。私たちの言う金銭管理問題とは、「せっかく破産したのに、また払えない借金を負ってしまった」「負債整理はしたけれど収入の範囲で生活するのが上手くできず大変」など金銭管理の困難な人への具体的な支援方法のことを指します。被連協主催の分科会にはこのような困難事例を抱えた人たちが参加しました。

2 様々な現場

分科会には弁護士、司法書士、消費生活相談員、地域包括センター相談員、クレサラ被害者の会の当事者や相談員などが集まり、日常の相談での困難事例を検討しました。

- ・破産をきっかけに家計簿をつけ始めたが、現金残高が合わないのでパニックになる人がいる。
- ・東日本被災地では今でも生活困窮者がいるが、住宅再建支援資金が300万円しか出ないので住宅が建たない、せめて500万円必要。
- ・税金の滞納も深刻で、どこまでサポートすればよいのか？
- ・親から見捨てられたため負債を繰り返しながら犯罪も繰り返す。子供食堂も大事だが大人食堂も必要。
- ・フードバンクで支援しています。
- ・県民共済を勧めている。3000円ほどで死亡保険と医療保険があり便利。
- ・携帯電話料金の使い過ぎの指導をしている。
- ・家計簿をつけられない人もいるが支援が難しい。

等の問題が出されました。

3 封筒管理法

全国の諸問題の報告の後、講師の小野由美子先生（東京家政学院大学准教授）が家計管理術の講義を受けました。小野先生は2004年から「多重債務者問題からみた社会福祉の在り方研究会（通称おたふくけん）」を立ち上げ、多重債務者、障害者等の生活困窮者、生活保護受給者などを対象とした家計管理プログラム開発を行ったり、各地で家計管理の研究会や後援を行っています。

第3封筒は「日々使うお金・あるとうれしいお金」（副食費やおやつ、交際・趣味等）に分けます。

これを基本にして、ステップアップも可能です。第2、3を週ごとに分け、それぞれで余ったお金を7番目の封筒に入れます。これが封筒7つで出来る金銭管理法です。家計簿指導だけしか知らなかった私も大変参考になりました。全国で勉強会や交流会を開きながら、生活再建にご一緒に取り組んでいきましょう。

分科会責(高松あすなろの会 鍋谷健一)

大いなる感動でみんなに勇気を与えてくれた高知うろこの会からの体験報告です。
(来年の全国交流集会は高知県です。)

全体会体験報告 『クレプトマニア・・・』

治療と努力で回復できる!!

高知うろこの会・新米ママさん

私は、クレプトマニアに悩み苦しんできたアディクション患者です。小学生の頃から盗みが辞められなくなり、少年院・施設(刑務所)での生活を幾度となく繰り返してきました。クレプトに関しては、欲しいという欲求が抑えられず、一日中盗みについて頭を巡らせ、その行為をいかにも楽しむかの様に行動に移します。盗みを繰り返す毎日、他者の言葉も耳に入らず、例え、少年院や刑務所での生活をしないと分かっている、その行為を達成しないと落ち着いていられません。

出所して二年以上もの間、社会生活の中で自分の弱さと闘いながら回復、更生の道を歩み始めています。それは、新しい家族が出来、母親となり、守るべき子供達が出来、自分が必要とされる人になれたと実感できた事が第一の原因だと思っています。

二番目に、私を立ち直らせる原動力になったのは、「相談窓口」に出会えたことでした。

病院の医師から新聞の記事を見せられました。その記事には「万引き・窃盗症・クレプトマニア」に関する記事と、相談会の案内も載っていました。私は相談日に出かけて行き、そこで初めて私のしてきたこと、万引きという犯罪・万引きの常習者という犯罪が、「クレプトマニア」という依存症・病気であることを知りました。

私が訪れた相談窓口「高知うろこの会」の相談員は、私の過去等を聞いた後、「貴女の行為・万引きは『クレプトマニア』という依存症・病気の一つではなだろうか」と言って、「クレプトマニア」について細々と説明してくれました。その説明の中で、私の思い当たる出来事などが一致しており驚きました。

また、この依存症は専門医の診断のもと、心の治療を受けながら、また、自助グループなどで同じ悩みを持つ人達とのミーティング・交流の中で、自己評価する判断力も生まれてくると説明されました。

私は結婚し、同時に3人の子供の母親になりました。責任重大です、甘えている事はできま

せん。「生まれてきた赤ちゃんを泣かすような母親にはなりたくない」との一心で色々な事に感謝や謙虚さも少しずつですが、心がけが出来るようになったと感じています。現在、自助グループの仲間の人たちと、それぞれが抱えた悩みや過去の出来事などを話し合い、そして反省しながら家族のみんなに感謝しながら。

二度目の長野での全国交流集会

初心に戻り、これからも参加を続けたい

福山つくしの会 H・Sさん

私をはじめ全国交流集会に参加したのは、平成十二年十月の長野集会でした。あれから十七年、思い起こせば入会したばかりで何もわからず、不安の中で参加した全国集会でした。テーマは「クレサラ被害はなくなるのか、二十一世紀に向けて被害の根絶を」でした。その後、被害者運動は改正「貸金業法」を勝ち取り、今回の長野集会は「貧困はなくせる」をテーマにするところまで前進しました。

分科会には「銀行のカードローンに対する総量規制」に参加しました。参加者をみると弁護士、司法書士の方が多く難しいやりとりについていくのがやっとでしたが、①銀行の貸し付けの適正金利を六〜七%にもつていかなければならない②奨学金は連帯保証人を取る。格差社会を是正するための反貧困運動として取り組む必要がある。等々・・・まだまだ、自分自身の知識がたりない。いくつになっても勉強しなければならないということを思い知らされる分科会でした。

交流集会が終わった後は一泊旅行です。宿泊地の渋温泉。昭和のレトロの温泉街を浴衣に下駄履きで外湯巡りを楽しみました。この地には二度とくることはないだろうと思うと心に残るものがありました。二度目の長野での交流集会で初心に戻ることができました。今後も身体の動ける限り、参加し続けたいと思います。

「福山つくしの会ニュース十一月号」から転載しました。広島の場合は合同で毎年、交流集会の後、一泊旅行を企画しています。楽しいですね。



編集後記

◆今回、全国交流集会で体験談を発表されたTさんの体験談を掲載させて頂きました。実際は、この三倍くらいの分量ですが短くしてしまい申し訳なく思います。初めて全国集会に参加した仲間も「とても感動した、勇気をもらった」と語っていました。思えば三十二年、活動を続けてこられたのも、この体験談を何度となく聞かせて貰って、「頑張るぞ」とエネルギーにしてきた源泉の一つです。多くの分量の本を読むより、当事者の方々の発言はとてつもなく真実です。胸をうちます。

あつという間に今年も残すところあとわずかです。みなさん、来年も頑張りましょう！

【倉】